我が街の記念碑 モニュメント 50

三橋氏3作品

町田市

三橋氏の3作品、①自由民権の像、②明けゆく、③ファイブストーンズ

【町田・書記・赤間晋務通信員】三橋國民（みつはしくにたみ）氏はすでに故人となっていますが、2014年に町田市名誉市民、さらに東京都名誉都民の称号を受けた彫刻、絵画、書、工芸などジャンルにとらわれない多彩な活動を行なった造形美術家でありました。

氏が手掛けた作品は町田市内に数点あります。なかでも薬師池公園に建立された町田市市政施行40周年記念モニュメントの「自由民権の像」は、明治初めに町田から発信して繰り広げられた自由民権運動の持つ意味を未来につなぐシンボルとして1998年に起ち上げられ、10メートルの高さはある巨大な像はさんぜんとそびえ立っています。

また、原町田大通り（都道）には、町田法人会がこの都道の開通を記念して寄贈したモニュメント「明けゆく」が建っており（2002年）、これも三橋氏の作品です。

仲間への「鎮魂」と
「平和への祈念」がテーマ

以上3つの作品は、どれも巨大でインパクトが強いものであり、三橋氏が第2次世界大戦中のニューギニア戦線に出征し、所属部隊40人中わずか2人の生還者だったことから生まれたテーマである戦没した仲間への「鎮魂」「平和への祈念」が根底に流れていて、それを感じることができるものです。

そして、私が仕事柄年中出向いていながらもまったくその存在を知らなかったのが、市役所庁舎前庭に設置された「ファイブストーンズ」です。2012年に竣工した町田市役所庁舎は、無駄に広い建物自体には今もなじめませんが、町田文化協会が寄贈した市民のための憩いの場を飾るこのモニュメント（2013年）は、涼しげでモダンな印象を受けます。

以上3つの作品は、どれも巨大でインパクトが強いものであり、三橋氏が第2次世界大戦中のニューギニア戦線に出征し、所属部隊40人中わずか2人の生還者だったことから生まれたテーマである戦没した仲間への「鎮魂」「平和への祈念」が根底に流れていて、それを感じることができるものです。

忘れえぬこと

甘々の小僧だった自分に
刺激くれた大工さん

大工　野口一徳

年明け、久しぶりに知人の手伝いをして来た。その大工さんとは25年程前に、とある現場で知り合った。当時の自分は親元でしか仕事をしたことがない甘々の小僧。何となくこのままでは続かないんじゃあないか、と思っていた頃だったと思う。

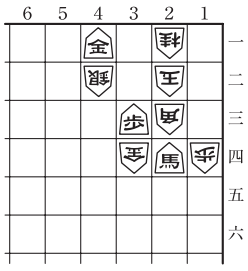
後からその現場に乗り込んできた大工さん、最初ちょっと怖そうで近寄り難く、友達にはなれそうにないなぁ、という印象だった。何日間か同じ現場で作業をし、休憩時間などに話をしたりするうちに無骨だが気さくで面倒見の良い人だと感じた。何より仕事に向き合う姿勢と力量に刺激を受けた。淡々と高度な技術で現場作業をこなしていく様は格好良かった、自分も努力を惜しまず精進していこうと思うようになった。

時々その大工さんの手伝いに呼ばれて行くことがある。特に社寺建築や古民家の現場などはとても勉強になり、また刺激を受ける。難しい作業でもやはり面倒見良く丁寧に教えてくれる。だから自分もいい仕事をしようと頑張るのだ。そういう事も教わっているんだと思う。

最近は大分角が取れて丸くなった様で、本人も大人になった、なんて言っている。確かにお互いイイ年にはなりましたが、いやいやまだまだ。武骨で刺激的な大工でいて下さい。夜のお供も大分ご無沙汰で自慢の歌声も聞いていない。寂しい限りだ。そちらもまた次回に。厳しい時期が続きますが、お互いケガなどには注意して頑張りましょう。

追伸、お酒と煙草はほどほどに、ですよ（笑）。（新宿）

詰将棋



チョット一服（1056）

3月16日に発生した福島沖地震により首都圏では210万軒が停電した。てっきり地震によって送電線が損傷したのかと思っていたら、実は電力需給のバランスが崩れると正常な発電設備も損傷してしまいブラックアウトになるので、変電所にある安全装置が作動したためだという。

停電の原因は東北・東京エリアの火力発電所が地震で一部停止したことにあるそうで、21日には政府が東電管内に「電力需給ひっ迫警報」を発し、東電も節電を呼び掛けた。ニュースでは悪天候で太陽光発電の供給が望めないと、言外に石炭火力や原発の必要性をにおわせていた。

ヤングおさま！

勇気

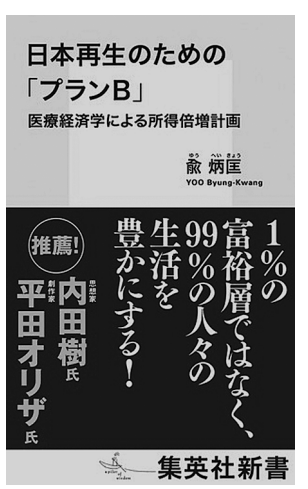
プーチン政権の統制下にあるロシアでは、国営テレビがウクライナへの侵攻を正当化する政治宣伝放送を大々的に展開している。そんな渦中の3月14日夜、ニュース番組の生放送中に事件は起きた。

「プロパガンダを信じないで」と書かれた紙を掲げてアナウンサーの背後に現れた番組編集者のマリナ・オフシャニコワは「戦争を止めて！」と叫んだ。この後、画面が切り替えられ、彼女は警察に拘束された。

本ほん

動画から辿る読書のススメ【後編】

日本再生のための「プランB」　俞炳匡（ゆう へいきょう）



【本部・若林美香記】YouTube「デモクラシータイムス」の【どん底ニッポンを立て直す】を観て、『日本再生のための「プランB」』を読んでみました。

今までの日本は、小泉政策で民営化を進め、アベノミクスでトリクルダウンを当てに株価を爆上げしましたが、この政策では豊かな日本を作れなかったことは皆が気づいています。お金は地域で循環することで経済効果が何倍にもなります。賃金が上がれば寿司屋で食事をし、寿司屋がクリーニング屋を利用し…巡り巡って経済が活性化するということ。病院や学校などの非営利団体は、利益がなくても十分価値のあるものを生み出し、働く人の賃金がGDPに反映。しかも賃金を増やせば自治体の歳入も増えます。資本主義の最強国と思われているアメリカも、業種別人口では公務員が第3位だそうです。経済を支えているのは営利企業の利益だけではありません。「プランB」とは、富が地域で循環するバケツ理論です。穴から漏れ出る富を少なくし、バケツの中で循環させることで99%の労働者が豊かにくらせる社会を作る。食糧やエネルギーの国産化で日本のお金を海外に逃さないことも大事な課題です。

日本はジェンダーギャップ指数120位（156カ国中）と不名誉な結果ですが、生きづらさを感じる差別により優秀な労働者が外国に出てしまい、国際競争力が低下しています。また、労働組合への結集率が低下したことも賃金が上がらない原因の一つです。賃上げ運動を盛り上げて、くらしも日本経済も豊かにしていきたいですね。（集英社新書・1012円税込）